

巨人の肩の上に立つ

滋賀大学附属図書館長 喜名信之

「巨人の肩の上に立つ standing on the shoulders of giants」という言葉があります。これは中世の人文主義者ソールズベリのジョンの『メタロギコン』の中に出てくる一節です。

「シャルトルのベルナルドゥスはわれわれをよく巨人の肩の上に乗っている矮人(わいじん)に準えたものであった。われわれは彼らよりも、より多く、より遠くまで見ることができる。しかし、それはわれわれの視力が鋭いからでもなく、あるいは、われわれの背丈が高いからでもなく、われわれが巨人の身体で上に高く持ち上げられているからだ、とベルナルドゥスは指摘していた。私もまったくその通りだと思う。」 (『Metalogicon』, III, 4)*

西洋において、ニュートンをはじめ、様々な思想家・科学者によってこの言葉は引用されてきました。近年では Google Scholarの検索画面で使われています。その意味するところは、私たちが、深くものを考え、知ることができるのは、それより前に蓄積された学問や文化や知識の総体の上に立っているからだということです。

滋賀大学附属図書館が目指しているのは、学生の皆さんがこの「巨人の肩」に立つことができるよう支援することです。4年間の大学生活を通して「より多く、より遠くまでみること」ができるようになることを心から願っております。

*柴田平三郎 著. 中世の春：ソールズベリのジョンの思想世界. 慶應義塾大学出版会, 2002.

